

精神分析①

ストレス耐性評価： **B.ストレス耐性が低い 13点**

<ストレス耐性とは？>

ストレス負荷がかかったときに、それを乗り切る能力。すなわちストレス負荷に耐える能力

<評価の見方>

A.ストレス耐性が高い...

一般的なストレスに耐える能力を保有しているため、人並みのストレスがかかる職場、仕事においても十分対応することができると考えられます。

B.ストレス耐性が低い...

ストレス耐性があまり低いと考えられるため、職場、仕事での一般的なストレス負荷に対して過剰なストレスを感じてしまう可能性があります。ストレス状況が継続しないよう、周囲からの配慮が必要と考えられます。

感情コントロール評価： **A.感情コントロールが高い 75点**

<感情コントロールとは？>

自らの感情をコントロールし律する能力。すなわち不快感情を表情や言葉に表すことを抑える力。

<評価の見方>

A.感情コントロールが高い...

不快感情を感じた場合でも、自身の感情を上手にコントロールし、表面に出さずに振舞えると考えられます。

B.感情コントロールが低い...

不快感情を感じた場合に、それをうまくコントロールしたり、気持ちを切り換えることが難しく、感情を表に出してしまう可能性があります。不快感情を引きずらず、気持ちを切りかえられるようサポートが必要と考えられます。

悩みにくさ評価： **A.悩みにくさ傾向が高い 64点**

<悩みにくさ傾向とは？>

落ち込んだり、身体の調子を壊したりしやすい傾向。すなわち現在落ち込みやすい状態か否か。

<評価の見方>

A.悩みにくさ傾向が高い...

現時点では、ストレスに遭遇した時に、落ち込んだり身体の調子を壊したりしやすい傾向があると考えられます。

B.悩みにくさ力が低い...

現時点では、ストレスに遭遇した時に、落ち込んだり身体の調子を壊したりしやすい可能性が考えられますので、ストレスに遭遇したときの様子の変化に注意し支援することが必要と考えられます。

行動コントロール評価： **A.行動コントロールが高い 46点**

<行動コントロールとは？>

感情を態度や行動に表す傾向。すなわち不快感情を、態度や言動を表に出さない強さ。

<評価の見方>

A.行動コントロールが高い...

自身の不快な感情をあまり態度や行動に表さず、不快感情をコントロールしやすい傾向があると考えられます。

B.行動コントロールが高くない...

自身の不快な感情を態度や行動に表わし、コントロールが難しくなる可能性があると思われま。不快な感情が態度や行動に現れる前に周囲の支援があったほうがより良いと考えられます。

精神活動性評価： **B.精神活動性が高くない 8点**

<精神活動性とは？>

心のエネルギーが高く、心が元気に見える傾向。すなわち心の活力がどれほど高く維持されているか。

<評価の見方>

A.精神活動性が高い...

心のエネルギーが高く、心が元気な状態を維持していると考えられます。

B.精神活動性が高くない...

心のエネルギーが低く、心の元気が失われやすい状態である可能性が考えられます。ストレスにより心のエネルギーが失われないよう配慮が必要とも考えられます。

思いやり評価： **B.思いやりが高くない 5点**

<思いやりとは？>

自分優先より他者の意向や気持ちを尊重し、他者に配慮しようとする傾向。

<評価の見方>

A.思いやりが高い...

他者の意向や気持ちを尊重し、他者に配慮しようとする傾向が強いと考えられます。

B.思いやりが高くない...

他者の意向や気持ち尊重しようとするよりも、自分の意向や気持ちを優先させてしまう傾向を持っている可能性があります。周囲との摩擦や衝突によりストレス状態にとどまらないよう配慮が必要と考えられます。

気分安定性評価： **B.気分安定性が低い 8点**

<気分安定性とは？>

環境や他者からの刺激に対して不快な気持ちが喚起されにくい傾向。

<評価の見方>

A.気分安定性が高い...

周囲の状況や他者からの刺激に対して、不快な気持ちが喚起されにくく気持ちが安定していると考えられます。

B.気分安定性が低い...

周囲の状況や他者からの刺激に対して、不快気分が喚起されやすい可能性が考えられます。不快気分が喚起された時は適切なサポートを実施し、不快気分が持続しないよう配慮が必要と考えられます。

ありのままに見せる傾向： **A.ありのままに見せる傾向が高い 90点**

<ありのままに見せる傾向とは？>

問題の解答についての、自分を良くみせようとする傾向。すなわち回答結果にどれくらい信頼性があるか。

<評価の見方>

A.ありのままに見せる傾向が高い...

問題を解答するにあたって、自分のありのままの状態を表わした傾向が見受けられます。

B.ありのままに見せる傾向が低い...

問題を解答するにあたって、自分をよく見せようとする傾向が働いた可能性が考えられます。